

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2993500020		
法人名	社会福祉法人太陽の村		
事業所名	グループホーム柳光		
所在地	奈良県吉野郡吉野町大字柳1395番1		
自己評価作成日	令和3年6月1日	評価結果市町村受理日	令和3年7月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JizyosyoCd=2993500020-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カリア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘四丁目4番33号
訪問調査日	令和3年6月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしい生活を支えていくために、地域や家族との結びつきを重視し、住み慣れた地域で安心した生活を送れる施設づくりを目指しています。その中で今まで取り組んできた外出や施設敷地内での散策や東屋を利用した外気浴・レクリエーション等を継続しながら毎日の生活が充実するためにメリハリをつけたサービスの提供を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな場所にあります。敷地も広くゆったりと過ごせる雰囲気があります。法人自体はグループホームの他、特養やデイサービスなど総合的に運営をされています。協力医療機関の24時間の連携もあり安心して過ごす事が出来ます。重度化となってもホーム内での看取りケアを含め、総合的な支援が可能となっています。地域との関わりは近隣住民がボランティアとして来られたり、行事のお手伝いに率先して協力を頂いたり、幼稚園や中学校との交流もあり、地域との関係性が良好です。スタッフはご家族への近況報告をメール等を活用し、きめ細やかにされておられたり、入居者の小さな気づきをケアに反映されたりし入居者の立場に立ってケアを実践されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一同、理念を共有し日々の業務の中で認知症ケアに向けて話し合いを行いながら実践できるように取り組んでいる。	朝のミーティングで理念を唱和。理念の他、基本指針や誓いの10か条を作成され共有しておられます。また、スタッフの名札入れに入れ携帯し意識付けをされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事に地域の方やボランティアの方に参加していただくことにより交流の場を設けている。	傾聴ボランティアや近隣幼稚園や中学校との交流があります。また、夏祭りでは地域の方が率先して会場設営等の協力があり関係性は良好です。現在、コロナ禍で受入れや夏祭り等は中止となっていますが、傾聴ボランティアの方が、入居者の方へ手紙を送って来られるなど交流は継続しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ認知症の理解をしていただくためにも認知症サポーター研修を行う等の取り組みを今後行う必要がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月々の行事の報告や入居者の日頃の様子、施設の研修実施、事故の報告等を話し合い、ご家族様からいただいたご意見を参考に日々サービスの向上に努めている。	現在、コロナ禍で集まったの会議は書面での報告となっていますが、通常は2カ月に1回、開催しておられます。参加者は地域の代表者、行政担当者、入居者のご家族の参加があり情報交換やサービス内容について検討されています。	会議では情報交換の他、ケアに関する事など、新たに取り組む業務について、ご家族や関係者と共に検討する場として活用され、運営推進会議の場を有効に活用しておられることに興味しました。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、市町村担当者からの意見をいただいている。又、事故等があった場合は速やかに報告を行い、連携を密に行っている。	日頃から連絡をとっておられ、相談や入居希望者の紹介を頂くなど連携をもって対応されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修に参加してもらい理解できる機会を設けている。日常の中で、身体拘束につながらないよう、言動一つにおいても注意しあえる環境づくりをしている。	年間計画で研修を企画され、身体拘束虐待に関する研修も年1回開催されています。また、同一法人内に身体拘束委員会も定期的開催され、身体拘束をしないケアへの意識付けがなされています。なお、玄関は安全面から施錠されていますが、入居者の方が外へ行きたいと希望されたり、仕草があればスタッフと一緒に屋外へ出ておられます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修を通して虐待への理解の機会を設けている。また年2回の職員・入居者へのアンケートを行い早期発見・早期解決に向けた取り組みを実施し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修は行えていない。今後、学ぶ機会を持つようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文面や口頭による説明を行っている。疑問点等があれば、理解していただけるよう十分に説明し、納得してもらえるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設にご要望・ご意見・苦情等についての意見箱を設置し、ご家族等からの言葉を聞けるようにしている。また日頃から入居者やご家族とのコミュニケーションを通して意見、要望を汲み取り運営に反映できるように取り組んでいる。	年に2回、入居者へのアンケートを実施されています。また、日頃の関わりの中で希望要望を聞き、運営に反映されています。ご家族とは、日頃の連絡等の関わりや、夏祭り、忘年会、外出行事など参加されたご家族から意見を聞いておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議等で意見や提案を行える場を設け、そこで挙げた内容を更に責任者会議で話し合う環境を作っている。	日頃の業務の中で相談に乗ったり、月1回の会議で意見やアイデアを検討しておられます。内容によっては法人の運営会議で検討され職員の意見を運営に反映しておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況に応じた給与水準を設け、人事考課にて対応している。面談を通じて、意見交換のできる場を作り、各職員の向上心を持つ働きかけを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	面談や人事考課を通じて各職員の把握に努めている。また職員のスキルアップやモチベーションを保つために施設内研修や外部研修に積極的な参加の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の機会を作り、他施設の参加職員との交流やネットワークづくりにつなげている。又、交流を通じ、良いものを取り入れる姿勢を持ち、サービスの向上につなげるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時にご本人やご家族の方から今迄の生活歴を聞き取り、暮らしが継続できる環境づくりや安心して入居していただけるように本人の訴えや要望を聞き入れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時にご家族からの要望を聞き取り、必要とされるサービスの提案に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人に生活歴を詳しく聞き、施設での暮らしに不安や混乱を引き起こすことがないように、多職種と連携を図り、安心につながるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	現在まで積み重ねてきた生活歴や経験をもとに本人とサービス提供者が教える教えられるような同じ立場にあり、入居者と同じ目線で入居者に寄り添った対応を心がけ共に過ごし支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と密に連絡を取り合い、又、施設行事に同行いただき、ご本人、ご家族、職員が協力し、同じ時間を過ごす環境づくりをすることで、ご家族とも関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族を通じて馴染みの人への連絡を取って、面会の機会を持てるようにしている。またご家族の協力を得ながら誕生日等に馴染みの場所への外出の機会を持てるようにしている。	現在はコロナ禍であり面会や外出機会は制限がありますが、元々、入居前の地域の方や知人の面会や、馴染みの美容院へ通うなどの支援をされています。また、お盆や年末年始は帰省されご家族と過ごされる方もおられます。その他、お誕生日には馴染みの場所や馴染みの店での外食などを企画され関係継続に努めておられます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別性を保ちながら孤立を防げるように行事への参加やレクリエーションの参加を促して入居者が関わる時間を持てるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要があれば本人、家族のフォローが出来るように相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入居者の些細な思いや言葉・行動等を汲み取り、安心して生活が送れるように職員同士ミーティングや普段の意見交換で情報の共有をし入居者の把握に努めている。	日頃の関わりの中で小さな気づきを毎日のミーティングで報告。ノートに書き止め情報を共有して、ケアに反映する仕組みがあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の事前面接にて可能な限り情報を収集し、暮らしが継続できるように努めている。入居後も継続してアセスメント・モニタリングを行い、施設での生活状況を踏まえ安心して生活していただけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々アセスメントを行い各関係職員は情報を共有し個々の有する能力を把握してケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族の要望を汲み取り、各関係職種と連携して介護計画を作成し、継続的にアセスメント・モニタリングを行い介護計画の内容の変更を都度行っている。	基本的に6か月に1回、見直しを行っておられます。サービス内容がきめ細やかに記載され、ご家族も関わるスタッフも分りやすく工夫されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録と介護日誌により、多職種との情報の共有を行っている。又、ユニット会議で話し合った内容を介護計画に反映し、計画に沿ったケアが実施できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があれば個別の外出支援や必要に応じて通院の送迎、付き添いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方に施設行事に参加していただき、地域の協力を得て、安全に楽しんでいただけるような協力体制を取っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループ病院の医師がかかりつけ医として対応している。また契約時に提携医療機関の説明を行い、理解をいただいている。月2回の内科・精神科回診と月1回の皮膚科の回診もあり、さまざまな医療ニーズに対応できる体制を作り、本人、家族の要望に適切な医療が提供できるように支援している。	元々のかかりつけ医への通院はご家族の協力を得ながら可能です。協力医療機関の往診があります。歯科往診も希望があれば対応が可能です。協力医療機関とも24時間オンコール体制で連携しておられ安心です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護職と連携を取り、介護日誌や介護記録、又は直接個々の入居者の意見や情報交換を行い、状態に応じて協力医療機関への協力依頼を即座に行える体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	グループ病院の相談員とスムーズな連携を図り、情報を提供し共有しながら密な連絡をする事で早期退院に向けた支援・協力体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身の状態変化の経過をご家族に説明し、主治医や関係者等にも相談の機会を持ち、終末期に対しての方針を共有できる体制を取っている。	入居時に終末期の過ごし方を確認しています。また入居後も状況により、その都度、ご家族や関係者と話し合いを行い、ご家族、ご本人の意向に即して対応されておられ、ホーム内での看取りも可能です。	スタッフに対しては看取った後に対応等の振り返りや反省点、精神面のフォローなどされ次に繋がる様に改善出来る様、偲びのカンファレンスと題して検討会を開催されておられます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を通して急変時や事故発生時の応急手当の対応ができるようにしている。また普通救命講習を年1回全職員が受講し実践力を身に付けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	管轄の消防署立ち会いの下、年2回の避難訓練を実施している。	防災訓練を年2回実施されています。また、地域の消防団の参加もあり有事の際の対応について訓練をされています。	施設の災害発生に備え、近隣の行政、所轄の消防署、地域住民が参加する総合防災訓練を企画をされていましたが、コロナ禍で延期となっています。コロナ禍での制限が解消された時に計画が実施出来ることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修や外部研修にて接遇・マナー研修に参加してもらい日々の業務の中でも注意し合える環境を作り入居者一人ひとりに合わせた対応を心がけている。	法人全体の接遇委員会による研修を年に1回開催されています。また、日頃からスタッフ同士が注意し合う環境づくりを行ってられます。その他、ホームスタッフも委員会の一員で月に1回標語を作り、スタッフへの意識付けをされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を確認しながら安心して生活が送れるようケアを行い、日々自己決定ができるように声掛けしながら認知症ケアの実践に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合でのケアとなる場面もあるが、日々職員同士で情報を共有しながら職員の業務に入居者を合わせるのではなく入居者の生活に業務を合わせていくようなケアの提供に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が自己決定できるような声かけをしながら入浴後の衣類を選んでもらったり、理美容時にも希望に沿うように本人の意見を尊重した支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせた行事食や月1回入居者と共におやつ作りを行い食べる楽しみを持てるようにケアを行っている。入居者の身体機能が低下してきているため、食事の準備や片付けを一緒にすることは現状難しくできていない。	毎食、法人の厨房で調理された料理が提供されていますが、入居者の方と敷地内で収穫した野菜でおやつや漬物を作って食べ楽しんでおられます。また、外出行事の際は、お店でお菓子を食するなど、食に関して楽しむ機会を設けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による食事摂取量の管理と毎週体重測定を実施し、栄養状態の管理と随時水分補給を行い水分摂取量の管理を行っている。また暑い季節はイオン水の提供を行い脱水予防を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に応じた口腔ケアの物品を使用し、口腔内の清潔を保つようにケアを行っている。また希望があれば月に1回歯科受診を受けることができる体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に適した排泄使用物品を家族に提案し快適な排泄支援ができるようにケアを行っている。またプライバシーを尊重した排泄援助を心がけている。	出来る限りトイレでの排泄に心がけておられます。また、入居者個々に合わせて吸収パッドを検討提案し快適に過ごせる様に工夫されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と連携し服薬による排便コントロールを行い便秘に対する予防や腸の動きが少しでも活発になるように日々の生活の中に体操を取り入れ運動を行い予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回、個々の身体状態にあった入浴形態で入浴してもらっている。曜日や時間帯については職員の状況に合わせて行うことがある。	お一人週3回の入浴を実施されています。季節に合わせて、しょうぶ湯やゆず湯を企画したり、入浴剤を活用し楽しむ工夫がされています。また、同一敷地内にある特養の機械浴槽も使用可能で重度化となった場合も入浴支援が可能となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の生活ペースに合わせて意向を踏まえながら活動と休息を行っている。夜間は無理強いないように本人が休まれる時まで付き添い、ゆっくりと過ごしてもらうように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の医師回診時に利用者の状態を説明し、薬の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人や家族の方から今までの生活歴や嗜好を聞き取り、暮らしが継続できるように役割を持ってもらい、楽しみを持っていただくように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者のニーズに沿って本人が希望される場所や仲の良い入居者同士で外出できるように家族の協力を得ながら支援している。	日常的に敷地内の散歩をするなど外出機会を設けておられます。自然豊かな環境で敷地内に屋根付きの休憩スペースもあり、息抜きや気分転換が出来ます。また、お花見などの外出を企画したり、誕生日には行きたい場所へ行くなどの支援をされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理に関しては高額なお金については事務所にて管理し、ジュース等を購入するお金は自身で管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話ができる入居者の方には、電話が利用できるような環境を作っている。又、必要に応じて手紙等の代筆や投函等も行えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内やその他の場所で座る場所を作りゆっくりとくつろげる環境と季節が感じられるような工夫を行い落ち着いて過ごせるように努めている。	共有スペースは、入居者お一人お一人がゆったりと座れるスペースがあります。また、テーブルには季節に合わせた花が飾られ、季節感を感じられ、温かい雰囲気となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者や職員もソファーに座ったり外に出てベンチに座りゆっくりと寄り添い話ができるような環境をつくり、それぞれに合った居場所の工夫を行うように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は暮らしを継続し落ち着いて過ごしていただけるように馴染の家具や写真等も飾ってもらい、家族様も面会に来られた際に気兼ねなく話ができる様にしてもらい、居心地良く過ごせるような工夫を行っている。	ベッドは介護用ベッドが備え付けられています。居室の窓からは自然豊かな風景が満喫出来ます。馴染みの物や趣味の道具など持ち込みは自由です。写真や絵画などの飾りつけも入居者の好みに合わせて飾られています。	入居者の方が寝たきりとなった時も、ご家族の写真や好きな絵などが目に入る様に配慮することに心がけておられます。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体能力に対して環境を工夫し、介護用品に関しても専門職員と話し合い家族様に助言し、それぞれに合ったものを使用することで安全で自立した生活を送れるように工夫している。		